



徳次郎町西根の大谷石の町並み

日本建築学会近畿支部民家部会 令和元年度研究発表会

日本の石造民俗建築



対馬の石屋根



富士山頂の石室

日本建築の多くは木造ですが、実は石で作られた建築も少なからず存在します。本研究会は三名の研究者による報告と海外からの視点を交えた講評を通し、石で作られた建築の意味を考える試みです。

発表1：小林久高（島根大学）

「石の性質と利用法－対馬・安来・新島の事例から－」

民家では石の性質に応じて様々な石材利用が見られます。板石を葺く対馬、ブロックを積む安来、軽石を組む新島の事例を中心に、石の利用法を紹介します。

発表2：安森亮雄（宇都宮大学）

「大谷石建築の意匠・構法・町並み」

栃木県宇都宮市で産出する大谷石の建築について、意匠・構法・町並みのヴァリエーションでアノニマスな特徴を、類型学（タイプロジー）的視点から発表します。

発表3：奥矢 恵（京都府立大学）

「富士山の石室－山小屋建築と山岳景観－」

近世から現代まで富士登山を支えてきた山小屋には噴石が用いられ石室と呼ばれます。苛烈で神聖な富士山の、山小屋建築の成り立ちと変容を紹介します。

講評：守田正志（横浜国立大学）

上記三名の発表を踏まえ、海外をフィールドとする研究者の視点から、日本の石造建築の特徴を考察します。

日時：2019年11月9日(土) 13:00～17:00

13:10-13:50：小林氏発表 14:00-14:40：安森氏発表
14:50-15:30：奥矢氏発表 15:40-16:00：守田氏講評
16:00-17:00：討論・質疑

主催：日本建築学会近畿支部 民家部会

会場：京都府立大学 稲盛記念会館



参加費：無料

お申込：必要

10月26日(土)までに下記メールアドレスへ御連絡下さい

お問い合わせ：安田徹也（竹中大工道具館）

Tel 090-9147-3419 E-mail yasuda.tetsuya@douguan.jp